

2013 年 7 月 29 日「子たる人間は父母である神と一つになる」石川祐司教会長

真のお父様聖和 1 周年記念式典まで、あと 26 日となりました。

以下に、本日の訓読のみ言を掲載いたします。

<訓読のみ言>

『天聖經』

祝福家庭 第 1 章 真の父母と祝福 3) 祝福家庭の責任

①真の父母と一体圏をなさなければ

「私は、祝福を受けたからもういいだろう！ じっとしていても天国だ」とそのように座っていれば、めちゃくちゃになるのです。祝福を受けたことが完成段階ではありません。皆さん、7 年路程を習ったでしょう。このような複雑な内容を知り、合わせてくれる人がいないので、全能なる神様も仕方なく引っ張られてくるのです。皆さんが祝福を受ける時、「私たちは神様の原理原則に従って祝福を受けた。きょうから一つになった」と言いますが、一つですか。

再び夫婦が再創造しなければなりません。お互いに再創造しなければなりません。怨恨の夫婦の溝を埋めなければならない道が残っていることを、統一教会の祝福を受けた者たちが忘れてしまえば、滅びます。私がいくら、「滅びない」と言っても、滅びるようになっていきます。二人の夫婦は、神様が願う理想的復帰完成の夫婦に向かい、再び再創造の過程をたどらなければならないのです。それで統一教会では、個人復帰完成、その次に家庭復帰完成をいうのです。(68-148, 1973.7.29)

人類が願うこととは何でしょうか。真の父母に侍ることです。6000 年前に、アダム、エバの成婚により、全人類が神様の子孫にならなければならなかったにもかかわらず、墮落することにより、人間たちはサタンの子孫になってしまいました。ですから、これから私たちは、6000 年前に失った天側の真の父母を再びこの地上に探して立て、その真の父母の愛の因縁を通じて重生しなければなりません。そうしてこそ、天国の民になれるのです。(19-203, 1968.1.7)

すべての始まりは、真の父母からです。すべてのものの出発、初めは皆さんではなく、真の父母です。生きるのもそうであり、行動するのもそうであり、愛の家庭を連結するのもそうです。初めは真の父母です。これは、先生の話ではなく、私たちの初めの先祖に対する神様の公式的な概念であったということです。どうすれば私たちの家庭を父母様の家庭のようにつくれるか、それを考えなければなりません。(277-251, 1996.4.18)

皆さんの家庭の中心は真の父母です。エデンの園で、真の父母と一緒に暮らせる家庭を築くことができませんでした。皆さんが、それを復帰しなければなりません。そのようにしようとすれば、父母様の命令に絶対的に従わなければなりません。父母様の前で、皆さんの意見はあり得ません。

皆さんに個人的な概念がなくなることによって、初めて真の父母の名前が皆さんの家庭に定着し始めるのです。そうでなければ、理想的な家庭を復帰できません。これは、先生の考えではなく、本然的な神様の創造概念です。(277-250, 1996.4.18)

皆さんはこれから、真の父母と共に生きなければなりません。ですから真の父母は、おじいさんの立場であり、自分のお母さん、お父さんの立場であり、自分たちは長子の立場だということです。3代にわたって共に生きるという結論、これが違うのです。神様が私と共にあり、真の父母が私と共にあって、自分の父母が共にあるのを感じて生きなければなりません。神様がいなく、死んだというのは、考えられない時代に入りました。(131-97, 1984.4.16)

人間は誰でも、心情的に神様と一つになるようになっています。神様である父と、子である人間は、正に心情で結ばれています。(祝福家庭と理想天国 I -469)